



今月、4月に『令和8年度「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰』調査・学術研究部門を全国で唯一受賞された島田勉さんを紹介します。島田さんは、テレビなどが無かった幼い頃、外遊びをしているうちに動植物などの自然に少しずつ興味を持ち始めました。中学生になると本格的に自然観察を行うようになり、出現した動物や野鳥などの種類、個体数の記録を取り始めました。大学生になると39日間に及ぶ南西諸島での野鳥の調査活動を行うなど、ますます自然観察の魅力に取りつかれ、精力的な調査活動に取り組んできました。こうした調査活動の中で、新種の動植物を見つけて名前を付ける先輩の姿に刺激を受け、それまで以上に自然の魅力に引き込まれたそうです。大学卒業後は中学校の理科の教員として働く傍ら、時間を見つけて調査活動を続けました。定年



自然観察を通じて今と未来をつなぐ

島田 勉さん（前谷・77歳）

退職後は、ぎょうだ市民大学や各公民館での講座、行田市郷土博物館での講演などを通じて参加者に自然の魅力を伝える活動もしていますが、自身の調査活動の頻度も増加しています。

現在も10日に1回は調査している場所が28カ所あり、これまでの調査回数は2万回を超えます。中には60年以上継続して調査活動を行っている場所もあります。同じ場所での長期間の調査記録は、埼玉県内でも数が少ないため、島田さんの調査記録が自然公園の設置やレッドデータブック（絶滅の危機にある野生生物に関する情報をまとめた資料）の出版に生かされています。

こうしたこれまでの長期にわたる動植物の調査への尽力が評価され、冒頭で紹介した『令和8年度「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰』調査・学術研究部門の受賞につながりました。

この受賞を通して島田さんは「どんなに人がくだらないと思うような小さなことでもやり続けていれば、いつか大きなことがなせるということを実感しました。『継続は力なり』です」と語ります。

現在、2028年度版のレッドデータブックの作成が始まっており、島田さんがこれまで調査してきたデータも使われるとのこと。島田さんは「自分が調査してきた記録が社会の役に立つことは大変うれしく、百年後、千年後にも使ってもらえるようなデータを残していきたい。そして、体が動く限りは調査活動を続けていきたい」とその意気込みを聞かせてくれました。

調査活動への意欲が衰えない島田さんの探求はまだまだこれからも続きます。

夏休み期間中、学習席を増設します

▶日時 7月1日(水)～8月30日(日)
▶内容 夏の学習をより充実した環境で行っていただけるよう、試行的に館内の学習席を19席増設し、65席に拡大します。

夏休み図書フェスタ ～冒険と物語の世界へ～

講座名	日時・場所	内 容	対 象
おばあちゃん のたまてばこ	7月23日(水) 午前10時30分～11時30分 図書館おはなしのへや	おばあちゃん先生の読み聞かせ、折り紙	4歳児～小学校低学年とその保護者(自由参加)
おじいちゃん のたまてばこ	7月24日(金) 午前10時30分～11時30分 図書館おはなしのへや	おじいちゃん先生のおもしろ工作	
こども司書 チャレンジ	8月6日(水)・7日(金) 【午前の部】 午前9時30分～11時30分 【午後の部】 午後1時～4時 図書館	【午前の部】 カウンター業務、本の配架 【午後の部】 本の修理、POP作成など	両日とも参加できる小学5・6年生(各部3人程度) 7月23日(水)までに行田市電子申請・届出サービスまたは直接図書館
怖～いお話し 広場	7月28日(火) 午後4時～4時30分 「みらい」映像ホール	小泉八雲やあさのあつこなどが原作のゾッとする怪談絵本や紙芝居の読み聞かせ	幼児・小学生、その保護者(自由参加)
図書館冒険隊	7月30日(木) 午前10時～11時 図書館	ヒントが書かれた「冒険マップ」を手にし、図書館内を探索し隠されたキーワードを探す	
子ども映画会	8月9日(日) 午後2時～3時 図書館おはなしのへや	世界各地でとらえた深海モンスターのスクープ映像・秘蔵お宝映像を上映	
英語であそぼう	8月16日(日) 午前11時～正午 図書館おはなしのへや	英語の歌遊びや絵本の読み聞かせ(講師：レガスピ キャセリン マナロ)	

行田歴史系 388

資料がかたる行田の歴史

88

固形だけど飲む!? 明治時代のラムネ

夏の季語でもあるラムネは、幕末に日本へ伝来したとされる炭酸飲料で、近代の人々に広く親しまれました。そのラムネが明治時代から行田で作られていたことをご存じでしょうか。

明治時代から昭和時代初期にかけて本町で薬店を営んでいた吉羽家は、軽便固形ラムネの製造元として有名でした(画像参照)。固形ラムネは重曹、クエン酸、香料などをタブレット状に固めたもので、「懐中ラムネ」とも呼ばれました。現在お菓子として販売されているラムネと材料が似ていますが、当時はそのまま食べるのではなく、水に溶かし炭酸飲料として飲んでいました。明治時代初期、粉末を水に溶かして作るラムネ沸騰散が人気となり、その後タブレット状の固形ラムネが生まれたようです。

ところで、なぜ清涼飲料のラムネを薬店が製造していたのでしょうか。ひとつ

は、薬品である重曹やクエン酸を取り扱っており、材料が入手しやすいからではないかという理由が考えられます。

もうひとつ考えられるのが、感染症との関係です。明治19(1886)年に東京近郊でコレラが流行し、北埼玉郡でもコレラによる多数の死者が出ました。同年の夏、東京横浜毎日新聞に「ガスを含んだ飲料を飲むとコレラにかららない」といった内容の記事が掲載され、東京ではラムネが品薄になるほど売れたそうです。吉羽家がいづからラムネを製造していたかは定かではありませんが、少なくとも明治30年代には既に「軽便固形ラムネ」が看板商品になっており、それ以前にラムネとコレラ予防を結びつける言説の余波を受けていた可能性があります。ただし、商品広告(画像参照)にコレラ予防をうたう文章はありません。実際に薬効があるわけではない、ということが知られていたのでしょうか。一方で「腐敗の恐ろし」



軽便固形ラムネの広告
(郷土博物館蔵)

展示します。

(郷土博物館 岡本 夏実)

俳句 ぎょうだ はいだん

俳句応募方法

一人3句以内。住所・氏名(ふりがな)・電話番号を明記の上、はがきまたは封書で広報広聴課まで。

※毎月末日必着

なお「一部添削して掲載する場合がありますが、不要であれば「添削不要」と記載してください。

海辺のまちにて八月十五日

小見 川島 盾子

【句評】 旅先の海辺で敗戦を迎えたという句であるが、日本も含めた昨今の世界情勢を思うと妙に気になる一句である。一部の独裁者が世界秩序を壊し、不穏な社会情勢が続く中、敗戦国日本は二度と戦争はしないことを国是としてきたが、ここにきて勇ましい声が飛び交いつつある。もう一度八月十五日を噛みしめてみたい。破調のリズムが一句の深味となった。

畳まれて目玉ばかりの鯉幟

矢場 島田 健治

【句評】 俳句は発見を詠う詩とも言われる。雄々と天空を舞っていた鯉幟が降ろされて畳まれたとき偶然にも一面が目玉ばかりになっており、その目力にたじろいでいる作者の姿が浮かぶ。これも一つの発見といえるだろう。十七音という狭小の表現しかできない俳句では、いかに意外性を捉えるかが一句の命となる。諧謔に富んだ一句に仕上がっている。

火祭りの終わりを告げる花火かな

小針 酒井美智江

【句評】 さきたま火祭りの一景である。俳句ではこの祭りを詠むのは難しいとされる。季語が命の俳句では五月四日の開催日が季語の選定を迷わせるからである。掲句のように単に火祭りと言えば、京都鞍馬の火祭りを指し、これは秋の季語になる。花火は秋と夏両方に収録されている季語。春の最終日のこの祭りはなんと悩ましい題材なのである。勇気を買いたい。

ごきぶりや老いという身もなかなか

門井町 宮田 淑尚

新茶汲み来し方辿る米寿の日

門井町 井上タカ子

ハーブ園五月は風のカモミール

緑町 松林 真弓

父の日や後のまつりの悔一つ

富士見町 江利川敏夫

晩節の萎えし闘志や浮いて来い

門井町 江原つとむ

梅若木精一杯に実をつけて

忍 大澤 由子

シルバーカーぴかぴかにして聖五月

持田 中野 華泉

(三沢一水選評)